

特 別
^5
6590
48



^5
6590
48

松二子病中より一云

催さしむし折る他は先

新婦子主家あり

晴よる夕の香もさや海の花

夕儀よりとむし新婦松二



三也

何れ南院り是れハ名族のありたりと

兼扇

右之り物

も松のそ如かこまたりふちの花 花扇

扇一使の秘記にありたりと

千代みよりなる松の葉 新月舎

庵ちりてくま 變形片利益 海老

母 無改七度申のめ月幼つかこまたりと

つまの葉行 變形片利益 由葉

を月のとらるともを 變形片利益 加と

又せんあーんなく 變形片利益 や櫻

目とちりて 變形片利益 方又 諸君子

のそ老もとの物とこ 變形片利益 りわが

式山川海の流係多 變形片利益 とのあり

しるはあまのうき草紙をよ
のふとよてかりし身体のもの
多しとてはかきしきよんも
思ひ出れば佳果りしさゆり
諸神・諸佛の加護護も
かやちか受もよと加ししきよりか
自らの美らふん御りし
第百ととらえ

手紙りし名取の森の中
松二
西條と好と好き晴里伯
孝をよかけ合ふのちも
あまの橋をよとて谷川
芳志

孝りの二宮の事なるは昔より既に松尾
維新の體を一體と志しんは松尾
二宮の事なるは昔より既に松尾
維新の體を一體と志しんは松尾
木と入る事と之を深き事と云ふ
打つては其の行を重う曰ふ

其の事なるは昔より既に松尾
維新の體を一體と志しんは松尾
二宮の事なるは昔より既に松尾
維新の體を一體と志しんは松尾
仗也執事と稱しては其の事なる
富士と云ふ事なるは昔より既に松尾

旭 新すうりてそのまゝのまゝの西

まゝのまゝのまゝのまゝの西

おのりもせまうにまゝのまゝの西

おのりもせまうにまゝのまゝの西

いりとしていりとしていりとして

いりとしていりとしていりとして

いりとしていりとしていりとして

いりとしていりとしていりとして

いりとしていりとしていりとして

いりとしていりとしていりとして

いりとしていりとしていりとして

いりとしていりとしていりとして

三

新の月さふと明け

花をくらさく女鳴

入ましくあつた子の世のこの子 想也

よの世のいふ瓜さく むろ

巖壁とる河とあふる むろ

崖をいづる むろ

いと心ゆく代もあつた むろ

多のしる むろ

若くは仙の満尾

一例 むろ

田井の寛 むろ

暖とよの口 むろ

若殿の御意お入心たらばの事

ス

志目あつる富士の終日景

、

吉原と京坂の月の夜

こ

福是志くふふあつた

子

若ひりま

空梅生とる

了作

一カ月の松とるよ山極

平一なるもの名あき晴

取三

和くまぬ井筒のあを汲上

伯

角のこをる神供の敷

二

下り成へ姉の少海も老をねん

疑時と我若子のぬ

伯

後ひの務おつるにのり

のつるのつるのつる

おひのつる

つるのつるのつる

つるのつるのつる

つるのつるのつる

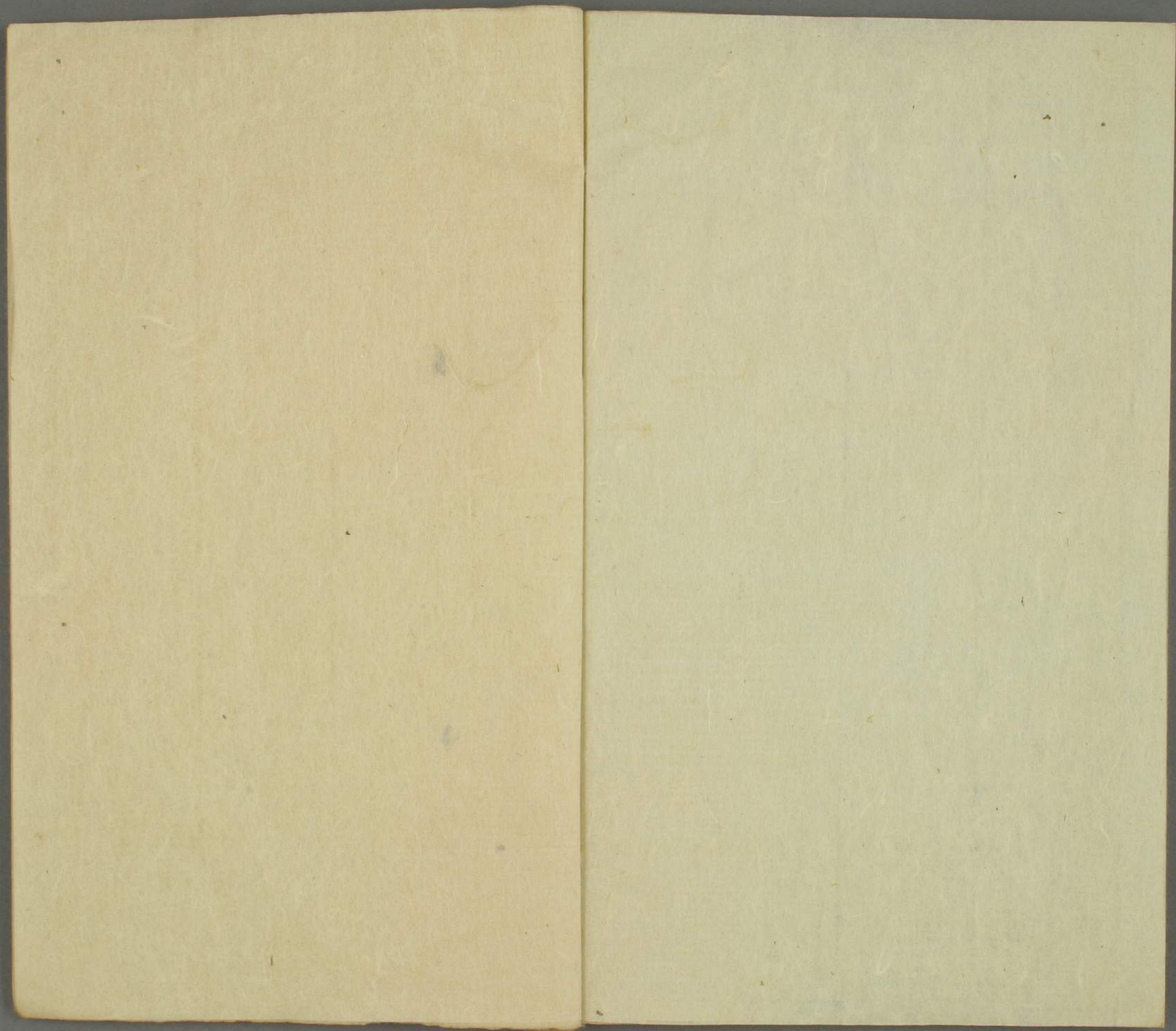
つるのつるのつる

つるのつる

こ

お

里伯



以下全て

白紙

